

校内研修計画

八幡小学校

1. 学校課題

八幡小学校は果樹園と緑に囲まれ、豊かな自然環境の中に位置している。昔から本地区に住んでいる家庭が多く、学校教育への地域の理解と関心は高い。また、家庭での児童の生活は比較的安定しており、“家庭が楽しい”と感じている児童が大多数である。スポーツクラブ等の関係で就寝時刻が遅いという課題を持つ児童もいるが、睡眠時間や食事など生活習慣面での課題は少ない。

学校生活に関しても、ほとんどの児童が“楽しい”と感じており、明るく素直に活動している様子がみられる。単学級のため、友だち関係が固定化している面もあるが、そのぶん休み時間など学年を越えた交流が多く見られる。多くの児童が、“仲のよい友だちがいる”，“いじめのない楽しいクラス”であると感じており、さらに“正しく生きることについて考え、思いやりの心を持って生活している”と自己評価している児童の割合も高い。ただ、少数ではあるが“そう思わない”という児童がいることは課題であり、思いやりの心・命の大切さを感じさせることは、学校教育全体で継続して取り組んでいかなければならない。

学習に関しては、自身の“理解の状況や学習態度”について十分でないと感じている児童も少数いるが、全体的には、興味・関心をもって進んで取り組もうとする児童が多いといえる。全国学力学習状況調査や山梨県学力把握調査から、国語においては、読解力、特に論理的な文章を読み解く力や説明する力に、算数においては、テープ図や数直線、式や言葉を活用し、説明したり法則を見つけたりする力に課題があることが明らかになった。読解力に関わる読書習慣の形成をはかる取り組みにおいて、図書室の利用や読書量ではかなりの伸びが見られたが、家庭も巻き込んだ読書活動や新聞や読書ノートの活用など、量だけでなく内容や活用の仕方においても一層の充実を図ることが必要であると考え。また、今日的教育課題であり、前述の調査結果から見える本校児童の課題にも通じる「思考力・判断力・表現力」の育成を中心に、どの子にも「確かな学力」を定着させるべく、「授業づくり」を核とした創意ある教育活動を展開していかなければならない。

〈めざす子ども像〉

○自他を思いやり、生命を大切にする気持ちをもつとともに、友だちと関わり合いながら、協調して活動することができる子ども（豊かな人間性や社会性）

○学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる子ども（確かな学力）

○進んで体力づくりに取り組み、心身ともに健康な子ども（健康・体力）

○がんばっている自分に誇りの持てる子ども（自尊感情）

2 研究主題

「生きる力を支える確かな学力の育成」

－わかる喜び・できる喜びを実感させ、活用する力を育てる授業づくりを通して－

3 主題設定の理由

めまぐるしく変化する現代社会に対応する能力の育成として、また、生涯にわたる学習の基盤を培うため、知識・技能の習得とそれらを活用した課題解決のための思考力・判断力・表現力、そして学習意欲・学習習慣という「確かな学力」の定着が、今、子どもたちに求められている。今年度、県では、〈個に応じた指導方法の工夫・改善による基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得〉〈体験的な学習・言語活動の充実による知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力の育成〉〈児童のよさや可能性の伸長と主体的な学習態度の育成〉を指導重点とし、市では、〈知識・技能の活用をはかる学習活動（活用学習）〉〈学級経営の充実（学級力の向上）〉を着目点としている。

本校においては、校内研究において、体験や体験的な学習を通して、『生きる力』を徳の側面からとらえた「豊かな心」、知の側面からとらえた「確かな学力」の定着を目指してそれぞれ3年間ずつの研究を継続してきた。本来、生きる力の基盤となる「豊かな心」も「確かな学力」も生活体験と切り離せないものであり、体験を通して学ぶ、学んだことを体験に生かす学習活動により、児童の意欲が高まり、実感を伴って深い学びになる、共通の体験によって学び合いや言語活動も充実するなど一定の成果が確認できた。また、「授業づくり」の要素・基盤として、学習規律や学習習慣の形成に向けた「学習環境づくり」の取り組みも2年を経過し、家庭との連携も機能し始めたところである。

以上2点と、素直で真面目に学習するが主体的に課題解決し豊かに表現することに課題がある本校児童の実態や、学校課題で述べた2つの調査から明らかになった論理的な文章を読み解く力や説明する力・活用する力の不足という課題から、「体験的な学習」については一区切りとするが、「授業づくり」を中心に据え「学習環境づくり」とも有効に機能させながら「確かな学力」の育成を図ることは、さらに継続が必要であると考え。

今年度は、「わかる喜び・できる喜び」が味わえる授業づくりを展開し学習意欲を高めることが、本校児

童の課題となる資質や能力の育成のために必要であるととらえ、過去3年間の研究と同様に、『学ぶ意欲をもち、自ら学び・考え・判断してよりよく問題を解決するとともに、主体的に表現することができる子ども』をめざす子ども像とし、主体的な学びにより、学ぶことの楽しさや成就感を体得させることで、『がんばった自分に誇りを持てる子ども』もめざしていきたい。これは、昨年度からスタートした英語科（文科省特例校）においても同様ととらえ、研究と実践の積み上げを図っていききたい。また、これまでの「学習環境づくり」を、「授業づくり」の要素としての「集団づくり」と基盤としての「学習環境づくり」の2つに分け、これらを研究の3つの柱として有効に機能させながら、「確かな学力」の定着を図っていききたいと考える。

4 研究内容（研究目標）

(1) 授業づくりについて

◎「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業を展開し、学習意欲を高めることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成を図る。

(2) 集団づくりについて

◎互いに認め合い、励まし合い、高め合える人間関係を築く活動に取り組み、学級力の向上を図る。

(3) 学習環境づくり

◎家庭との連携を図り、発達段階に応じた取り組みを工夫しながら、授業の基盤となる基礎学力の定着や学習習慣の確立を図る。

(4) 具体的内容

- ① 「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業、学級力向上についての理論研究
- ② 「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業の実践（英語科、国語・算数）
 - ア 指導計画の作成と指導方法の研究
 - イ 授業実践・授業改善
- ③ 「八幡小学習規律」の見直しと定着に向けた日常の取り組みと意識調査
- ④ Q-Uテストの実施と実態把握→改善に向けた取り組み→変容・課題の共有
- ⑤ 「やわたタイム」を朝読書やくり返し学習の活用、基礎学力の定着
- ⑥ 「家庭学習の手引き」「家庭学習と生活の記録」カードを活用、生活習慣・学習習慣の定着

年間校内研修計画

研究主任 清水 利子

| | 研究テーマ | 教科領域等 | 担当者 | 学年 | 授業の時期 | T・C要請 |
|-----|--------------------------------|-----------------|--------------|----|--------|-------|
| 4月 | 研究主題・内容・計画 | | 研究主任 | | | |
| 5月 | 理論研究 (授業づくり・ 集団づくり) | | 研究主任 英語担当 | | | |
| 6月 | | | | | | |
| 7月 | 指導計画・授業計画 | 国語 算数 英語科 | 研究主任 全 員 | | | |
| 8月 | 部会授業研究 授業案作成 | | | | | |
| 9月 | 部会授業研究 授業案作成・検討・授業 | | | | | |
| 10月 | 中間まとめ 指導案作成・検討 国語・算数授業研究 | | | 学年 | 10月30日 | ○ |
| 11月 | 授業研究まとめ 授業案作成 | | | | | |
| 12月 | 英語科授業案検討 | | | | | |
| 1月 | 英語科研究授業 | | | 学年 | 1月29日 | |
| 2月 | 授業の反省 本年度の成果と課題 | | | | | |
| 3月 | 来年度の構想 紀要の作成 | | | | | |